慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	石油産業における価格決定に関する一考察
Sub Title	
Author	尾野正明(Ono, Masaaki) 田中滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第747号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0747

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No.７４７

学生氏名　尾野　正明
（エッソ石油株式会社）

主査　田中　滋
副査　青井　倫一
矢作　恒雄

所属　田中　滋　研究室

石油産業における価格決定に関する一考察

二度の石油危機の結果，石油は一躍世界の関心の中心のひとつとなった。その後の１９８６年に至る石油価格の暴落を経て，世界の石油への関心は再び薄れつつあるようにも見えるが、わが国あるいはいくつかの消費国においては，過去の石油危機時の苦い経験から、石油の供給不安を過度に強調し、石油の消費量を減らす一方、膨大な備蓄を抱えるとともに，代替エネルギーを積極的に導入していこうという政策がとられているように思われる。エコノミストの中には１９９０年代の半ば以降に石油需給が逼迫し、第三次石油危機が勃発すると論じる人も多い。確かにその可能性は否定できないが、それを過度に強調し、石油への依存度の高さを危険視し、単にエネルギーの石油依存度の数値を低めるといった政策を拙速に推進するだけで良いのであろうか。

本論文では，経済学的アプローチから需給曲線を用いて石油の価格決定メカニズムについて過去の事例を振り返りながら考察し、今後の石油価格について展望の指針を求めようと試みた。その結果，石油価格の決定の分析に政治的な要素は決して無視しえないが経済学の理論はあくまで有用であるとともに，今後の石油価格の決定にあたって供給側であるＯＰＥＣの果たす役割は引続き大きなものであることが確認された。同時に消費国側の石油需要曲線の形状が垂直に近い限り，突発的な供給不安に対しては極めて脆弱な体質であることも確認された。それらの分析を踏まえ，今後のわが国を含めた消費国のエネルギー政策に必要な施策は単に需要曲線を左にシフトさせるのでなく，石油価格の変動に応じて石油需要を増減させるシステムをエネルギー消費構造にビルトインすることであると結論した。